

子どもを性犯罪・性暴力の加害者・被害者・傍観者にしないための「生命（いのち）の安全教育」について

令和7年6月30日(月)13:30~16:20 青森県総合社会教育センター（参加者167名）

はじめに

性に関する被害は人としての尊厳を傷つけるものであり、万が一、子どもたちが被害に遭った場合は、子どもたちの心身とその後の人生に大きな影響を及ぼすこととなります。近年、県内においても性犯罪・性暴力による被害が報告されております。

教育委員会では、このことを受け、令和7年6月30日に森本晋也氏（元文部科学省安全教育調査官現岩手県立図書館館長）を講師に招き「子どもたちを性犯罪・性暴力の加害者・被害者・傍観者にしないための生命（いのち）の安全教育」をテーマとした研修会を開催し、その概要をリーフレットにまとめましたので御覧いただき、子どもたちを守るための取組を実践していただきたくお願いします。

「生命(いのち)の安全教育」とは

- 生命(いのち)を大切にし、子どもたちを性暴力の加害者、被害者、傍観者にしないための教育
- 性暴力の根底にある誤った認識や行動※、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解
- 生命(いのち)を大切にする考え、自分や相手を尊重する態度等を身に付ける

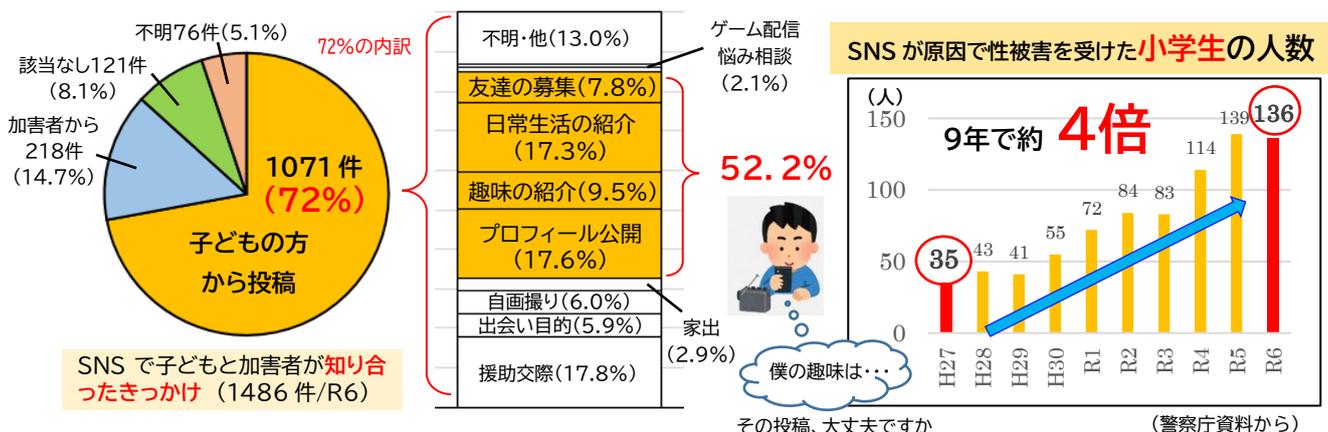
※どんなに仲がよい相手でも、いつも自分と同じ気持ちではないこと、自分と相手ではいたいことや考えが異なることを理解すること

子どもの性被害の現状(1) 加害者の7~8割が顔見知り

- 特に子どもは、親、祖父母や、先生・コーチ、施設職員等、自分の生活を支えている人や友好的だと思っている人からの被害を受けることも多く、被害を他人には言えない状況がある
- 子どものうちは性被害だと気が付かず、年齢を重ねていくうちに気が付き、被害後、時間が経過してから心理的に大きな傷を受ける場合がある

子どもの性被害の現状(2) 被害を受けた子どもの7割が自分からの投稿

- 投稿内容は、性被害に巻き込まれると考えにくいもの(プロフィール・趣味・日常生活の紹介等)が約半数



子どもの性被害の現状(3) オンラインゲームで不特定の人とつながる

【特に注意が必要!】オンラインゲームは、子どもが犯罪に巻き込まれるきっかけとなるリスクがあります

- ボイスチャット、メッセージ交換ができる機能が備わっており、不特定の人と簡単にやりとりできる
- 協力してゲームを行ったりすることから、見知らぬ人に対して「仲間意識」を持ちやすくなる
- ゲーム上級者に対する「憧れ」の感情を利用される(ゲーム攻略のアドバイスをもらったりすることから)

(警察庁資料から)

